

NO. 4	議席番号	氏 名	質問事項・要旨及び答弁者
	3	東 出 洋 一	
<p>1. 令和5年度執行方針について</p> <p>令和2年4月より初当選した鈴木町政が船出しました。若い町長には、どのように木古内町の将来を変えてくれるのか、町民すべての人の期待と、熱いエールに押されスタートを切ったと思います。</p> <p>町長自身も町民のために全身全霊で立ち向かう、身を粉にして職務にまい進しようと、熱く強い決意だったと思います。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルスの感染がさらに拡大し、住民の生活スタイルも、マスクの着用や手指消毒、外出の制限など、老若男女問わず、厳しく苦しい生活を余儀なくされました。</p> <p>今日まで、医療機関、高齢者施設、教育現場などで奮闘された方々に心から感謝申し上げたいと思います。</p> <p>一方で、国からの感染症対応の地方創生臨時交付金により、町単独ではできない事業を実施し、住民への経済支援ができたのも事実です。また、病院にあっては包括交付金による医療機器の更新や新規導入が行われ、高度医療の整備が整い、医療環境のさらなる充実が図られました。</p> <p>今年度はコロナ禍から3年目、ようやくコロナの収束が見え始め、国からの通達により小中学校の卒業式もマスクの着用について、自己判断の措置が取られるようになりました。しかし、まだまだ気を抜けない状況であります。</p> <p>また、ロシア、ウクライナの紛争が丸1年経過し、いまだ終息が見えません。その影響により国内経済に大きな打撃を与えています。</p> <p>当町においても家計費や各業種においても物価上昇による影響が出ています。基幹産業を守るため、今年こそが鈴木町政の正念場だと思います。</p> <p>そこで、以下の3点について町長の考えを伺います。</p> <p>(1) 新型コロナウイルス収束後の経済回復が急務だと思いますが、当町の基幹産業である一次産業について、どう対応していくのでしょうか。執行方針では「町民目線」で「スピード感」をもってとありますが、町長の考えを伺います。</p>			<p>町 長 教育長</p>

(2) 町の人口は平成29年度末(4,232人)～令和3年度末(3,785人)の5年間で447人減少しています。年平均で89.4人、令和2年度から令和4年度では約200人程度の減少となっています。今後の推移を見た場合、少子高齢化に歯止めがかかりません。当町だけではありませんが、人口減少問題にどのように取り組むのか伺います。

(3) 当町は他町村に先がけ保健、医療、福祉の3本柱を掲げ、ハード面、ソフト面において投資を充実させてきたことから、一定程度の環境整備が達成できたものと確信しております。もう一本の柱は未来ある子ども達のためにも「教育充実」を掲げ、4本柱とすることが大切だと思いますが、町長、教育長の見解を伺います。